



タイ・With コロナ時代の介護施設の対応

シムプラング・ナッタデット
CHOOMPLANG NATTADECH

●国際医療福祉大学医学部公衆衛生学教室 助教

WHO（世界保健機関）の発表によると、多くの国では新型コロナウイルス感染による死者の4割以上が高齢者の介護施設で亡くなっている。さらに、高所得国ではこの割合が8割に上る国もあるとし、重症化しやすい高齢者の感染予防を徹底するよう呼びかけた。しかし、このような深刻な状況の中で、タイの介護施設は、運が良かったのか、一人も入所者や介護スタッフの感染事例が報告されていない。というよりも、そもそもタイ国内の感染者数が3ヶ月以上ゼロという報道を聞き驚かれる方も多くいるだろう。このように、多くの国で高齢者施設での集団感染が報告されている中で、なぜタイはコロナの感染の広がりを抑えることができたのか、介護施設での対応を考察していきたい。

筆者は、タイ各地域の高齢者施設の感染拡大防止対策、並びに各施設における具体的な対応・介護スタッフの対応を知るために、昨年8月に科研費による研究調査で訪問した15カ所の高齢者施設（政府系6施設、民間系7施設、財団2施設）への電話・メールによる聞き取り及び各施設のHP・Facebookを通じた情報収集を実施した。さらに高齢者事業局、保健省の関係者への聞き取り調査も行った。15カ所の高齢者施設のうち、13カ所からの情報を得ることができた。得られた情報を分析したところ、次の3つ示唆を得ることが出来た。

第一に、多くの症例は、ボクシングスタジアム

や娯楽施設等の集団活動からの感染が多く、高齢者施設まで感染拡大する可能性がほとんどなかったことが明らかとなった。タイ政府は迅速に感染を抑制するための政策を発表し、徹底的にマスクの着用・手指衛生の遵守を義務づけている。介護施設における具体的な対策として、ウイルスが外部から持ち込まれるのを防ぐため、入所者との面会の自粛や、施設内での徹底的な衛生管理が共通して行われている。

第二に、保健省から全国の高齢者施設に対し、協力要請が行われていた。その内容は、介護従事者が入所者と接する際の、サージカルマスクの着用、手指用消毒ジェルの使用、手洗い、唾液などの飛沫に接触しないこと、社会的距離を置くことなどであった。介護スタッフ・施設関係者は「政府の要請・保健省の指導に従い、入所者のケア・入所者との交流にあたっての身体接触に万全の注意を払うようになった」と語る。どの施設も介護施設で発生する感染症は、外から持ち込まれる病原菌が原因であることを共通認識として有し、そのため、病原体を「持ち込まないこと」「持ち出さないこと」「拡げないこと」を日々の介護業務において徹底している。

第三に、各高齢者施設は、保健省医療サービス局より発出された「コロナ状況における高齢者のケアの基本方針」に従い、高齢者の日常生活自立度（自立、半自立、非自立）に応じて、感染防止



タイ政府・保健省による新型コロナウイルス禍における高齢者ケアガイドンス

出典：保健省医療サービス局ホームページ
(2020年10月29日アクセス)



新しい生活様式の中の介護現場
— 家族との面会風景

出典：バンコク都内の介護施設より
写真提供（4月末撮影）

や免疫力アップに取り組んでいる。施設によっては、さらに独自の感染防止対策を行っていることが明らかとなった。例えば、外からウイルスが持ち込まれないように介護スタッフを施設内で宿泊させることや、全介護スタッフに出勤前に体温を測って報告する施設もある。

このような対応について考察を試みたい。

労働集約的な介護現場はオンラインやリモートへの代替が困難な上、日常的なケアでも密閉、密集、密接の「三密」が生まれやすく、感染リスクが非常に大きい。

さらに新型コロナウイルスの特徴として、多くの人が軽症者、無症状者にとどまる一方、抵抗力の弱い高齢者、障害者、基礎疾患のある人が命を落とすケースが多いとされている。

本稿は高齢者介護を中心に記述しているが、免疫力の低さなどリスクが高い点、労働集約的で「三密」が避けられないという点では、障害者福祉の現場も同様の側面も持っていることは念頭に置く必要がある。

こうした中、介護現場の負担感は強まったと考えられる。中でも、季節性インフルエンザへの対応など日常的な衛生対策を除けば、感染症対策に関する介護現場の経験値が高かったとは言えず、ここまで気を配らなければならない場面が想定されていたとは思えない。ましてや以前から介護現場は恒常的な人手不足に悩まされており、介護職

員が感染したり、発熱などで大事を取って休んだりした場合、少ない人員で介護現場を回す必要に迫られていたと思われる。

このほか、外出制限などに伴って高齢者の体力や認知機能が低下している問題など、もう少し現場では複雑な問題が起きている。

5月下旬に示されたWHOのCOVID-19への医療システム対応強化のガイドライン（Strengthening the Health System Response to covid-19）ではパンデミックに備え、効果的な統治システムによる介護（Long-term care）サービスの維持、追加的な財政投入を通じた介護システムの安定化、感染防止対策の確立、要介護者と介護職員を対象とした検査やモニタリングシステムの優先的導入、スタッフの安全を確保するための医療体制の充実、介護家族を対象とした一層の支援、継続的なケアの提供を確実にするサービス間の調整、高齢者の尊厳を保った緩和ケアに対するアクセス確保などに言及しており、高齢者介護への対応が今後の課題として残されている点は概ね各国で共通しているようだ。

タイにおいては、WHOの勧告に先んじて、政府による国内の徹底的な感染予防対策に加え、保健省による具体的なガイドラインが明確に提示されており、各施設においてこれらを遵守したことが、高齢者施設への感染拡大防止に繋がったと考えられる。